

# 躍進

YAKUSIN

VOL. 5

株式会社加藤組社内報「躍進」1987・Vol.5

発行/株式会社加藤組

男鹿市脇本脇本字向山18の6 TEL(0185)25-2235(代)

発行日/62年4月1日 印刷/秋田協同印刷株式会社



株式会社 加藤組

光飯商事株式会社 日本アスコン株式会社  
秋田ブロック工業株式会社 秋田建設運輸株式会社



出番間近!

## はりきる海の男達と第36海光号



これが、船内での海の男の昼食です。いかに、母ちゃんの弁当を、おいしく食べれるか仕事がよく出来なかった時、体の調子が、悪い時などいろいろなトラブルに左右されるため、弁当は元気の素です。仕事は弁当をおいしく食べれるか、どうかで、決まります。この一年母ちゃん弁当を乗組員一同、おいしく食べて行きたいと思ひます。

(母ちゃんヨロシク!)

36 海光号乗組員

- 佐々木敏雄 ● 齊藤和男 ● 船本光一
- 小野利光 ● 薄田英男 ● 西方鍊悦
- 鈴木金二郎 ● 佐藤司朗
- 江畑芳克 ● 本山隆春

# 郷土の明日を みなさんと共に



加藤義孝

## 働きやすい環境 をつくること

男鹿の発展とは、何か。私は市民の一人一人が、自分の仕事に誇りを持ち、生き生きとして地域の生活を樂しめるようになることであると思います。会社に勤めているので、会社に勤めているので、あれ、自営業であれ、自分の力を十分に発揮できる仕事をもち、更にそれが他からも認められること、人間としてそうした誇りを持つことが全ての基本であると思います。政治がそのために成すべきことは、

す。私は、その主役自身がまだ気付かないでいる力を引き出すために、これからも努力していきたいと思っております。

## 地域への 貢献をテーマに

今は、加藤組の第一線から退き、皆さんの働きぶりをじかに見るといふ機会も少なくなりましたが、ときたま、車で現場を通ることがあります。また、人づてに加藤組の仕事が聞こえてくることもあります。そういう時は、自分が手塩にかけて育てた子供にいったような気持ちになります。頑張っているな、うまくやっているかな、と思わず四十年前の、現場を見る目になつてしまいます。男鹿の土台を築こうとはじめた私の気持ち、今も皆さんに受け継がれ、男鹿の発展に寄与するまじり余っている時より、何も無い時の方が知恵が働きます。いことです。

## 今が正念場



私たちが

応援しよう

今の男鹿の状態は、私たちが若者にとっても好ましいとは言えません。町に活気がないと、どうしても秋田市のような大都市に目がいってしまいます。このままではだんだんさびれる一方ではないかと不安になります。何とかしなければ……と思いますが、どうすればいいのか、正直に言って、その方法が分からない状態です。

それは多分、男鹿の全市民がそう思っていると思います。やはり、皆の気持ちをうまくいく方向に向けてくれる指導者が今の男鹿には一番必要ではないかと思えます。加藤先生はこれまで、長い間県政で腕を磨いてこられて、政治の世界で言うなら働き盛りを迎えたと言えるでしょう。今こそ、その指導力を発揮していただく時ではないかと思えます。

政治のことは私には難しくよく分かりませんが、先生のような方に男鹿を導いてほしいと思います。私たち、社員一同、応援していますから、先生、頑張ってください。

人間一人では生きられないように、企業もまた地域との関わり無しでは生きていけません。地域への貢献は、今後皆さんの仕事の一つ一つが男鹿の地域に関わりがあるということをほこりに思っ日々仕事の事に当たって下さい。

危険の中に必ず発展のチャンスは隠れています。もはや、男鹿に後方はありません。今が正念場、前進あるのみです。私は市民と共に発展のチャンスを見つけて、それを明日の活力につなげるための環境づくりを県政の場からバックアップしてまいります。

皆さんのご協力ご支援を心からお願ひ申し上げます。

# 時代に対応する

## ソフト体得に取り組む

情報管理プロジェクトチーム

栗森 吉照

情報化社会の到来に伴い、建設業界でも、コンピュータによる営業情報の収集、経費の節減、人事管理等が行なわれていきます。当社でも、七年からコンピュータを導入し、現場管理、経理等を行ってきました。

しかし、五年たった今、時代のニーズに対応する為、プログラムの再編成が必要となりました。そこで、自社でプログラムの変更、製作を試みることとなり、プロジェクトチームを結成しました。

研修内容は、VTR及び講習資料に基づきプログラムに関するすべての分野で行われ

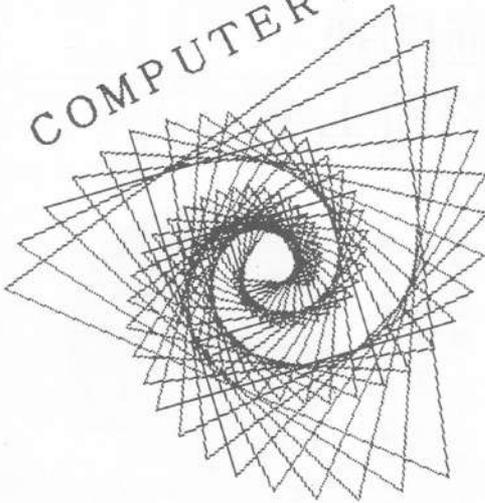
ます。なにぶん、コンピュータプログラムが初めての人がほとんどなため、暗中模索の状態です。しかし、各自が「やらなければいけない」という使命感を持って日々技術の習得に励んでいます。

今後、皆さんには、このプロジェクトの為、御迷惑をかけることと思いますが、どうか会社発展の為に御協力を、お願い致します。

最後にプロジェクトチームのメンバーを紹介します。

- 金子憲行、高桑広貴、鈴木浩悦、山下伸、小山田定昭、栗森吉照

# COMPUTER AGE



# MY TOWN OGA



土木部建築課長  
松橋利幸

“成せば成る”  
やるっきやない!



なまはげユーモ輪村は、男鹿の観光再生と男鹿和牛振興の端緒づくりを願い開村されました。私も実行委員の一人として参加していますが、今の男鹿に必要ならと思ふ意欲的な実践あるのみという状況です。

昨年の十月「頂上空中大提言」の席上で観光男鹿半島についての提言をしていただきました。その内容として、

- 一、柴灯まつり、男鹿のなまはげ、お山かけ、五社堂、真山神社などのPR
- 一、レジャー施設の完備
- 一、観光道路の整備
- 一、料理の工夫



## 高速交通関連 道路整備工事



土木部土木課主任  
伊勢谷 寿

●工事名—高速交通関連道路  
整備工事●発注—秋田県知事  
●受注金額—六千八百五十六  
万円●工期—昭和六十一年十  
月三日～六十二年三月十日

### 紆余曲折

### をへて完成ま近



男鹿八竜線船越高架橋に取  
り付く延長一四〇m、高さ六  
・五〇m、一・三〇mの擁壁工  
事の現場は会社から車でわず  
か二分。目と鼻の先にあるま  
す。基礎工として、PHC杭二八  
二本（直径四〇〇mm、長さ一  
五m四二本、一〇m二四〇本）  
を打込むという工事です。特  
定建設作業区域ということだ  
したので、基礎杭工事に伴い  
騒音振動規制法に基づいて、  
市役所の公害課まで特定建設  
作業実施届出書の提出を要求  
されました。杭打工事は、施

工方法にもよりますが、騒音  
や振動を伴うので、現場近く  
の住民からの苦情は避けられ  
ないだろうと初めから予想し  
ておりました。ところが、杭  
心測量も終りいよいよ杭打工  
事に取りかかろうという段階  
になって、予期せぬ問題が二  
つ起ってしまったのです。一  
つは、近くに病人のいる家が  
あるということと、工事によ  
る振動の影響で家屋に損害を  
来たした場合の保障に絡む事  
前の家屋調査を発注者側が実  
施していなかった、というこ  
とです。開始早々、これらの  
問題で二週間工事をストップ  
せざるおえませんでした。ま  
た杭打工事においては、予  
想どおり騒音や振動に対する  
苦情に加え、ディーゼルハンマ  
ーの油の飛散による汚染の苦  
情処理に足を運ぶこと数回、  
我々もハンマーの油で真黒に  
なり毎日洗剤で手や顔を洗わ  
なければならぬような状況  
でした。そうこうして、杭打  
工事もようやく軌道に乗りか  
けた時、急病人により、二度  
目の工事中止（一週間）がか  
かってしまいました。これら  
が原因で工程はますます遅れ  
るばかりでしたので杭打機を  
二台に増やし工程の短縮を計  
りましたが、騒音や振動も増  
し、現場内は、祭さわぎの様  
なものでした。

- 加藤組
- 熊谷敏夫  
土木部技術担当室長
- 市川康彦  
営業部秋田営業所長兼務
- 梁田耕次  
営業部次長兼務
- 船木金次  
技術管理部技術管理課長
- 清水和夫  
営業部事業課長
- 秋本純巧  
建設機械部建設機械課長代理

### 人事異動





土木部 原田 康文

なまはげYOUUモーター輪村の代表者として、副社長をはじめ約十名で、この大会に参加しました。当日は、小雨の降

# ミニ独立国 冬期オリンピックピック大会に参加して

る中、北は北海道、南は九州、沖繩までのミニ国家の方々が入場行進しました。私たち、YOUUモーター輪村も、村長を先頭に、こまら娘、なまはげ、等の仮装をして行進しました。ただ一つ残念だったことは、会場近くまで連れていった半の親子が、行進できなかったことでありました。



株式会社 参加して

第二日は、寒中相撲大会がまん大会等に、参加しました。特に競技の最後を飾る、雪模様空の下に、短パン一つで、その寒さといったらありませんでした。それでもなんとか、がんばり、結局三十分耐えた後、残っていた五名全員が優勝となりました。なお、そのうち四名は、なまはげYOUUモーター輪村のみなさんでした。

最後に、陰ながら応援してくださいましたみなさん、本当にどうもありがとうございます。

## 自衛隊体験入隊所感

62年2月2日～7日



土木部 武田 透 (22才)

会社で「自衛隊体験入隊」と聞かされた時は、はつきりいってあまり気がすすみませんでした。昨年体験入隊した人たちから聞いた話の話を聞いていたからです。いやいやな

「まあ、たいていこんなものだろう」と思っていました。甘い考えでした。毎朝、上半身裸でのランニング。とてもきびしい基本教練、むずかしい体操、苦しい一週間はまたたく間に過ぎました。毎日、激しい筋肉痛におおわれながらも行った訓練も今考えればとても楽しかったことのように思われます。

この訓練の中で一番つらかったことは、やはり、下三叉路までのランニングでした。しかし、自衛隊の方々はいつも走っていると聞かされて、とても驚きました。ふだんはいつも不規則な生活をしていた私にとっては、たいへん役にたち、かつ「少しは根性も増した」と思われます。これも皆、教官及び助官たちのおかげだと深く感じています。

これからも、ここで学んだことを生活の教訓としてがんばっていきたいと思います。それから、後日の寒中水泳にはぜひ参加したいと思っておりますのでよろしくお願ひします。

- 佐藤 忠成 土木課土木係長
- 原田 一雄 土木部技術担当次長
- 夏井 直弥 土木課土木主任
- 伊藤 彦助 土木課土木副主任
- 成田 義則 土木課土木副主任
- 白岩 勝 土木課土木副主任
- 安田 張幸 建築課建築副主任
- 荒木 聡 港湾課土木主任
- 船木 光一 港湾課機械副主任
- 斉藤 和男 港湾課機械副主任
- 鈴木 太郎 土木部秋田中央事業所長
- 三浦 久美子 総務部総務課 準社員に登用
- 内田 透 土木課

- 鈴木 金次郎 港湾課
- 三浦 秋広 建設機械課
- 日本アスコン(株)
- 米屋 真一 秋田工場長代理兼務
- 畠山 一彦 秋田工場機械主任
- 伊藤 俊博 男鹿工場総務係長
- 鈴木 浩悦 男鹿工場機械課
- 鎌田 定光 男鹿工場試験課
- 加藤 睦子 男鹿工場業務課
- 秋田プロック工業(株)
- 鎌田 三豊 営業課
- 秋田建設運輸(株)
- 沢田 庄市 車輻課 準社員に登用
- 大森 悦夫 車輻課
- 鈴木 登美男 車輻課



## 熱き心のダイナミックスポーツ TAG OF WAR



## 綱引き大会



鈴木 耕一

春はライオンの如くやって来る。三月一日、東中体育館は嵐を呼んだ。君は見たか、あの熱闘を。あの躍動を。そして、TAG OF WARの神髓を。手に汗にぎる、ダイナミックコミュニケーション。

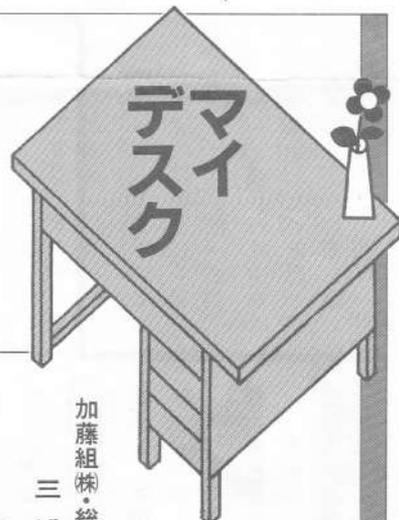
かくして、秋田県選抜第六回加藤杯争綱引選手権大会は興奮のつぼの中で展開されたのである。出場チームも各地の強豪がスラリと勢揃い。遠くは森吉町、二ツ井町、能代市、琴丘町、井川町など枚挙にいとまがない。本大会も回を重ねるごとに盛況の色合いを濃くし、今回は男子四十六チーム。女子一七チーム。合計六十三チームと、過去最高の出場チーム数を誇るに至った。この様な大規模大会は県大会を除いて他に例を見ない。まさに躍進するスポーツ「綱引き」の祭典にふさわしい熱戦の絵巻となった。男女共、全国大会、秋田県大会で大活躍し、その名を県下に轟かせしめたチーム同士の対戦とあって、ハイレベルの試合で観客を魅了した。本大会の圧巻はやはり、全国第三位の実績を誇る女子チームの英雄、琴丘体協である。並いる強豪を圧倒し、本大会を三連覇で飾った。同チームの田中忠夫監督をして、実に素晴らしい大会である」と言わしめたのである。一千人を超える参加者の誰もが、次々に展開される大熱戦のとりこになったのである。大会運営も終始一貫して、職責をこえる調和の精神がみなぎっていた。

本大会が無事成功裡に終了できたのは、伊東俊夫大会委員長をはじめとする大会役員熱き心の結晶が絢爛と花咲いた賜である。と確信しております。今後とも、新しい波に挑戦し続ける加藤組綱引きクラブに対し、尚いっそうの御協力をいただきたく存じます。また、かげながら本大会の為に御尽力くださいました。皆様方に対しまして、綱引きクラブ員一同、深く感謝致します。



● 本大会の成績 ●  
 男子の部 優勝 羽立農協青年部(天王町) 準優勝 加藤組ブルーシャトー(男鹿市)  
 第三位 桂瀬愛郷団(森吉町) 女川バッキン(I)(男鹿市)

女子の部 優勝 琴丘体協(琴丘町) 準優勝 浦田若勢会婦人部(森吉町)、第三位 桐ヶ丘療護園(井川町)、太平洋レディース(飯田川町) 以上



日本アスコン(株)男鹿工場 澤木 晶子



昭和43年3月23日生  
 家族(父・母)  
 横浜市立横浜商業高校卒業  
 昭和61年4月入社  
 失敗だらけの毎日ですけど  
 めげず頑張りますっ。  
 スツキな彼女  
 募集中ですっ!!

加藤組(株)総務課勤務 三浦 久美子

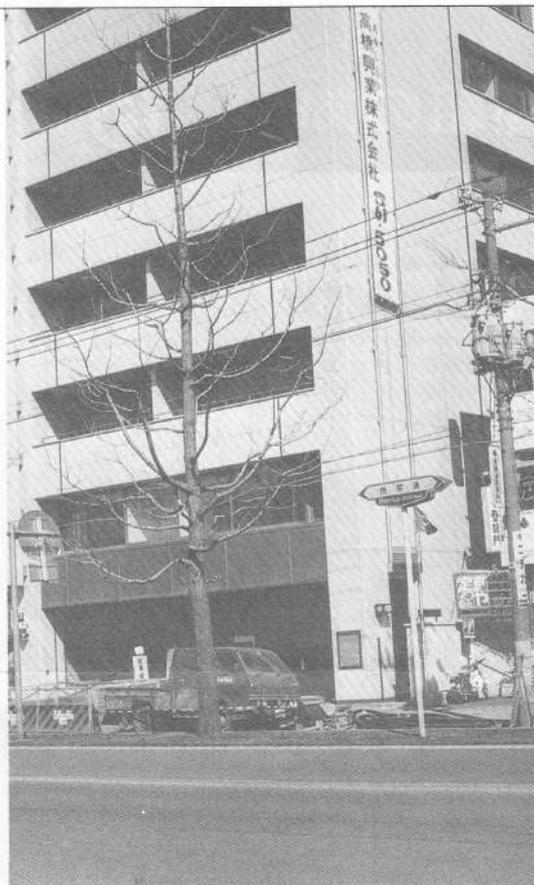


また新たな一步を踏み出す事になり、初心を忘れずがんばりますのでよろしくお願ひします。

日本アスコン(株) 総務係長 伊東 俊博



一月八日付で日本アスコン(株)総務課係長の辞令をもらいました。今まで以上に強い責任のある職務を肝に銘じて、充実した仕事ができるように頑張っていきたいと思っております。



所長 高橋正夫

仙台営業所は一昨年八月同業者の一室を借りて産声をあげましたが、昨年四月国分町三丁目アルファオーフィスビル三階の現在地に移転し再出発しました。

当営業所は仙台のほぼ中央に位置し、国の出先機関の入居している合同庁舎と、東北地建、県庁、市役所等の官公署まで歩いて数分と言う非常

に便利な場所にあります。

仙台の国分町と言えば戦前から歓楽街として知られており、またなかには余り芳しくない評判もあるようですが、当営業所のある国分町とは、幅員の広い定禅寺通りにより南北に分断されているため、街の中心部にしては比較的静かで落ち着いた雰囲気のある街であります。

しかし、今仙台では今年七月開業予定の地下鉄工事が終盤を迎えて最後の追込にかかっています。また電線地下埋設工事も年度末を控えて一斉に始まったので騒がしい毎日が続いております。

当営業所の仕事も他の営業所と同様、官公署へ挨拶回りをして、会社名と顔売り込みをいろいろな情報を入れることです。当営業所も本格的な営業活動を開始して間もなく一年を迎えますが、各官公署にも当社の名前が徐々に浸透してきていると思っております。

今年一月特定建設業の大臣許可が降り、対外的には仙台営業所での契約行為が可能になったことで新たな展望が開け、これまでより営業範囲を広げ、発注元の開拓と指名回数増加を目標に営業活動したいと思っております。本社においても、指名に際して出来るだけ工事の実績を挙げて頂きたいと思っております。

おわりに社員の方々も仙台においでの際は是非お立ち寄り下さい。ただし、職員が一名で留守がちですから、事前にご一報頂ければ、ご案内いたします。

追伸 今年七月十八日から約二ヶ月間、未来の東北博が仙台で開かれます。



## 安全委員会より

安全委員会副委員長  
梁田耕次

自分の身体は自分で



事業担当次長

加藤組の安全五ヶ条に「自分の身体は自分で守ること」という項があり、現場の皆さんは毎朝唱和しているはずですが、このことを肚の底から理解しているでしょうか。

会社は労働安全の確保を最優先にして事業を進めていますが、会社が安全に力を入れていることによって、ともすれば自分たちの身体を会社が守ってくれているように錯覚しがちです。怪我をすれば会社に申し訳ない、会社のために安全確保しなければならぬと勘違いする人もおります。

怪我をして一番苦しむのは本人です。安全の決め手は、

自分のために、自分で自分の身体を守ることなのです。そのことが結果的に職場全体の安全につながり、会社の業績向上にもつながるのです。

今年こそは、とゼロ災職場の確立を目指して出発しましたが、二月二日に労働災害が発生してしまいました。しかしこのことで挫折してはなりません。安全委員会は「安全最優先」という会社の方針を堅持し、皆さんが「自分で守る」安全確保の手助け、後押しをします。今後のゼロ災に向けて、心を新たに再出発しましょう。

# 加藤組のあゆみ 5

日本海の荒海を回航するの  
に余りにも時間の掛、り過  
ぎるため、取りあえず曳船を  
購入する事にしました。幸い  
千葉県に、引取り手の無い新  
造船があるとの事で昭和四十  
六年に六五屯七〇馬力の曳  
船を購入して参りました。当  
時は男鹿の業者にもこのよう  
な優秀な船はありませんでし  
た。

木次長でした。昭和四十六年  
以降五十年の前半にかけて受  
注高も年々多くなり、又使用  
方塊なども大きくなり在来  
の船では作業が困難になり、工  
事に合わせて船を整理し新し  
いものに取替えて行きました  
ただ、起重機については秋田  
の業者は全部といっても良い  
程石川島コーリング機種を採  
用して居りました。陸上機械  
からキャタピラを外して台船  
でも台船に取付けると五〇屯

吊であっても常時作業する半  
径八米位になり、一七屯位に  
吊る能力が下がってしまいま  
す。五〇屯位の方塊を吊ると  
なると無理ばかり掛かり一  
仕事終る毎に足廻りのローラ  
ーの修理で修理費も重み作  
業も出来ない様になってしま  
した。そこで、昭和五十二年  
に一〇〇屯吊起重機、建造の  
検討に入りました。起重機と  
いうのは作業半径が一番大事  
です。従来の石川島の機種は  
作業九米となると六十屯位に



(続)

秋田ブロック工業(株)工場長 (50才)

## 三浦喜代見一家

妻/ユミ子(45才)  
長女/和子(19才)  
二女/貴子(17才)  
※長男/貢(21才)は  
新潟に在住



ファミリー紹介

加藤組に入社(昭和四十九  
年)した時、長男は小学三年  
生、二人の娘は幼稚園児でし  
たが、それがこの三月、高校  
を卒業し就職するまでになり  
ました。月日のたつのは速い  
ものだと今更ながら感じてお  
ります。家内も加藤組にお世  
話になって、十五年になりま  
す。毎朝、四時三十分に起き  
て、五人分の弁当を作り、自  
分も七時には出勤します。夕  
方は帰る早々食事の仕度、洗  
濯の繰り返しを何年もやって  
きました。家内は本当に良く  
やってくれています。いつも  
心の中で感謝しております。

も地元で置くつもりでしたが  
県外に出すことになりました。  
可愛い子には旅をさせると申  
しますが、長女もまた、家を  
出て、埼玉県に行くことにな  
りました。何となく淋しい思  
いのするこの頃です。

◆ ◆ ◆

三浦工場長御一家も、お子  
さんが親元を巣立ち、一時は  
お淋しいと思いますが、離れ  
ていても家族の絆は一つ。お  
嬢さんも、ご両親のことを思  
いやりながら、立派に成長さ  
れることでしょう。工場長も  
健康には十分気をつけて一層  
のご活躍を期待しております。

## 編集後記

つい先頃、躍進四号の新年  
号が発行できたと思ってい  
たら、もう今回の発行の運びと  
なりまして。時間の経過が早  
いのに驚いております。あれ  
もこれもと気ばかりあせって  
肝心の原稿が集まらないとい  
うジレンマにおちいっており  
ます。みなさん、どうか内容  
のある原稿の応募を、お願い  
します。



この躍進五号がみなさまの  
お手元に届く頃には、県議会  
議員選挙が告示され、街も選  
挙に明け暮れている事でしょう。  
地域社会の発展の為に、  
郷土を心から愛し日夜ご尽力  
されている加藤義孝先生に  
は是非とも頑張っていただ  
きと社員一同感謝しております。